

快利、傷人如鋒刃、七月抽長莖、開白花成穗如蘆葦、花者芒也、五月抽短莖、開花如芒者石芒也、並於花將放時、剝其籜皮、可以爲繩、箔草履諸物、其莖穗可爲掃帚也、是芒可訓須歧、石芒可訓伊登須歧也。

〔下學集〕草木薄韻府曰木曰林、薄故云叢

〔書言字考節用集〕六植芒時珍云、葉如茅而長四五芭、茅芭、芒芭、杜榮、並出薄楚辭註、草木交曰薄、今按芒、花。

〔東雅〕十五薄ス、キ 倭名鈔に、爾雅には草の聚生を薄と云ふ、萬葉集の歌に、花薄の字よむでハナス、キといふと註せり、其註せし所の如き、薄の字ス、キと讀む事然るべしと思へりとも見えねど、また正しくいづれの字を用ゆべしといふ事も見えず、陳藏器李東璧等の本草に據るに、芒は爾雅に苙に作ると見えしは、此にしてス、キといふ者也、一種莖の短きを石芒といふと見えしは、此にシノス、キなど云ひし物に類して、其穗に出でぬるをば、ハナス、キと云ひ、其花をばヲバナといふなり、ス、キとはヲギといふ名に對し云ふなり、ス、とは猶サ、と云ふが如し、其細くして細きをいふなり、キは其葉の人を傷ふ事、鋒刃の如くなるをいふなり、ヲバナとは萬葉集に、麻花としるせり、絲などの亂れたるやうになるをいふと、舊説には見えたり、藻鹽草にススといひ、ササといふ、其語の轉せしにて、其義は同じ、たとへば雀をスマメといひ、鷓鴣をサ、キといふ、共にこれ其小鳥なるをいふが如し、

萬葉集抄にミクサとはス、キなり、眞草の義にてミクサといふべし、此集義讀の中、草花とかきてヲバナとよむ、是ス、キは眞の草なるなり、萬木千草多かりといへども、神祇を祝ひかざり祭るに、神をミサカキといひ、ス、キをミクサといふべし、天照大神天磐戸にこもり給ひし時、野槌者採五百箇野薦八十五籤と云云、これに因りて信濃諏訪明神のみさやまのかりやに、